

- 南部町では、農家の高齢化が進み、後継者も少ないため、栽培面積の減少が続いている。産地を維持し、生産振興を図るためには、果樹園を次世代につなぐ体制の整備が重要課題とされた。
- 平成24年5月より、課題解決のため、普及所は南部町を中心としたプロジェクトチーム(以下、PT)に参画し、プランの策定を支援、活動の一翼を担った。
- カキ園では、維持園5戸 174a、継承園2戸 44a、新植改植園4戸 100aが得られ、廃園が防止された。
- チャレンジ講座での指導を通じて、担い手候補を1名掘り起こした。

具体的な成果

1. 南部町『次世代につなぐ果樹産地リレープラン』が平成24年11月に採択された。
2. 全果実部員アンケート調査の結果、リレー候補となるカキ園が5戸 174a確認され、地図落としを実施した。(平成24年11月)
3. アンケート調査で確認されたリレー候補園は維持され、別に、平成25年度、リレープラン事業により、継承及び新植、改植が実施された。
 - 維持 5戸:面積174a
 - 継承 2戸:面積44a
 - 新植、改植 4戸:面積100a
4. 平成25年4月より、開講された南部町「梨柿チャレンジ講座」が。新たにナシ、カキを生産する方、生産を始めた方を対象に、果実部、普及所が講師役となり、栽培における実地研修を行った。
累計7回、述べ23名が参加(平成26年1月現在)。
5. 南部町「梨柿チャレンジ講座」の受講生の中から、果樹の担い手候補1名を掘り起こすことができた。第7期アグリスタート研修生として、平成26年2月から本格研修を開始した。

普及員の活動

1. 南部町、あいみ果実部と連携し、アンケート結果の地図落とし、年齢構成調査、県外事例調査を実施。PTメンバーとしてプラン策定を支援し、活動の一翼を担った。
2. 担い手候補を掘り起こすため、南部町「梨柿チャレンジ講座」で実地研修を行い、ナシ、カキ栽培の基本および用語、時期ごとの作業について指導した。
3. チャレンジ講座で掘り起こした担い手候補に対してはより重点的に指導した。

普及員だからできたこと

1. 果樹産地が存続していくために必要な課題と解決案を検討し、町、果実部とともに現場での栽培実地研修など具体的な行動に移せた。
2. 現場に寄り添い、要望をくみとることで、実状に合致した提案をして事業化することができた。
3. 担い手の掘り起こしにおいては、チャレンジ講座、選果作業等と一緒にすることにより、地域に密着して、就農に向けた的確な助言ができた。

